

# 千葉発 除染技術に注目

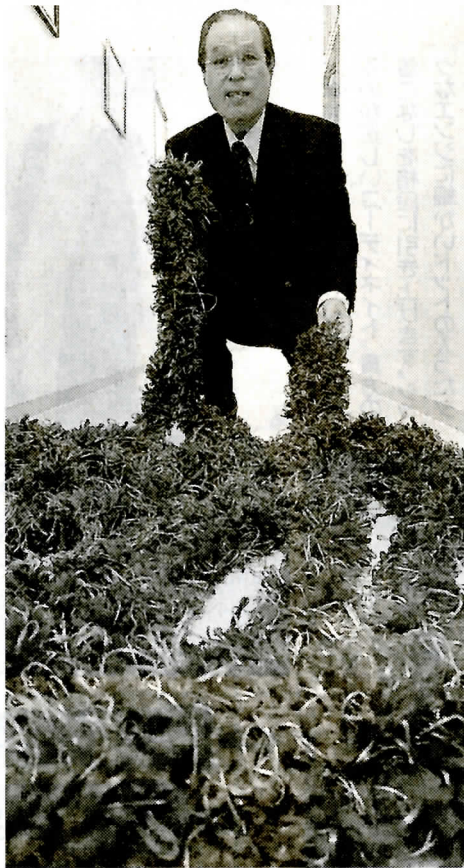
東京電力福島第一原発の事故で放射能汚染が問題となる中、放射性物質を効率よく取り除く技術の実用化が相次ぐ。なかでも「千葉発」の独自技術は除染後の処理もしやすいなどの利点があり、注目されている。

## 効率よく吸着 新繊維「ガガ」

### 千葉大院・斎藤教授チームなど

ナイロン繊維でできた緑色の物体。敷き詰めればじゅうたんのようになり、ロール状にしたり、掃除用モップにしたりと自在に形をかえて使える。水に溶けた

放射性セシウムを効率よく吸着する新製品は、千葉大学院工学研究科の斎藤恭一教授の研究チームと、ベンチャー企業「環境浄化研究所（群馬県）」が開発し



放射性セシウムを吸着する繊維材「ガガ」。千葉発の技術を実用化したものだ＝群馬県高崎市

## 震災から放射線

た。

「短時間で放射性物質を回収でき、圧倒的に使いやすい」と斎藤教授。吸着繊維は、東日本大震災後に激励のため来日した米人気歌手レディー・ガガの髪に似ているため、復興の願いを

込めて「ガガ」と名付けた。園芸で用いる「接ぎ木」の技術を分子レベルで実践。ナイロン繊維に放射線をあてて表面の分子を切りとった後、そこへセシウムを吸着する特性を持つ分子をくっつけたのだ。放射性セシウムの吸着材としては鉱物のゼオライトを使う手法が知られるが、ガガの吸着量はゼオライト

の400倍にのぼるといふ。さらに除染後は圧力を加えて容量を減らすことができ、ゼオライトより廃棄物が少なく済むのだ。長さ1メートルの繊維の束を数万円で販売。すでに大手ブランドメーカーが福島原発の周辺で使っており、除染や汚染がれきの処理に悩む東日本の複数の自治体が検討に入っている。